虫の目、鳥の目通信　第２１号

会員募集中！

２００８年３月１５日

２００８年2月２３日　片無双網猟体験と自然観察会　大人１６名

楽しみにしていた無双網体験です。当日朝は暖かく、ウグイスやコジュケイなどが鳴いていましたが、どんどん気温が下がって、風が強く寒い日となりました。
まずは、藤田さんのお話を聞きました。

昔の三沢地区の林や森は今よりも広くて小さな谷がありました。特に丘陵地の谷間の田んぼは湿田が多く、カモが飛来する環境があったと思います。冬になると日暮れや夜明けに２０～３０羽が帯状になり編隊を組んで飛んでいるのを毎日見たものです。ねぐら入りするカラスのように、カモで空が真っ黒になる程飛んでいるのを見た事もありました。カモは夜明けと昼、そして日暮れに獲っていました。

稲刈りの後の水田に何ヶ所か水を入れ、カモの「えば（猟場）」にしていましたが、これらの場所は入札で決めていたようです。（カモを獲る人は同じ人だったので、えばの場所もあまり変わりませんでした。）このえばに網を仕掛けました。餌は籾です。場所によっては、えばの中央の稲株を細工し、おとりのカモを作ったりしました。

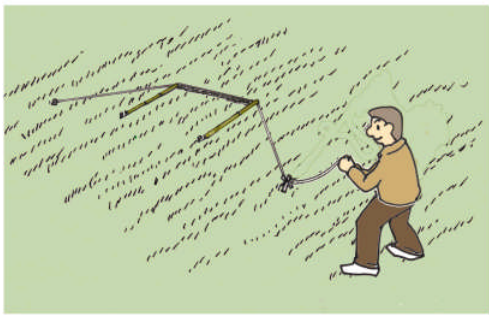
用心深いカモが気を許すのをまって猟をしていましたが、キツネやタヌキ、イタチなども寄ってきたりしました。特にキツネはカモに触る（カモ猟の妨げになる）ので嫌がられていました。子供が猟場に勝手に入るのは勿論ご法度でした。

網がついている鉄線を引っ張るにはものすごい力が必要です。「頭がガーンとなって脳震盪を起こすくらい引っ張らんと網はかぶさらん」と言われていました。カモに網をかぶせると、驚いて死んでしまうカモもいました。のどに籾がつまったままのものなどもいました。カモは、歯でかんで絞めたもんです。自分は子供だったので想像になりますが、口の中は血だらけになっていたのではないか、と思いますよ。

カモは馬車やリヤカーで運んでいました。そのときに、稲藁で編んだ「ふご」に入れたりもしました。家に持って帰って部屋の中に並べると、ちゃんと絞めていなかったカモがバタバタと動き回って子供ながら驚いたもんです。子供の頃、何度か猟についていきましたが、暗い森を歩くのは怖かったです。残念ながらその時に獲れたことはありませんでした。〈以後次号に続く〉

実際に引っ張ってみました

参加された大渡剛弘さんが、イラストと文を送ってくださいました。　（ブログより　http://mikunikyuryo.blog107.fc2.com/）

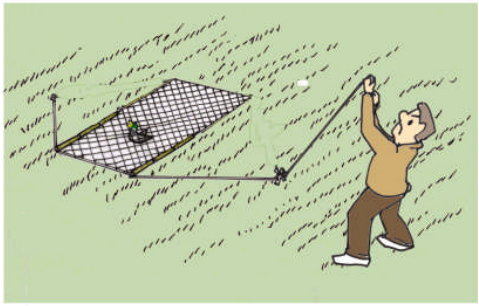


先日、昔行われていたという、ムソウ網のモデルを見せて貰いました。

本物の網は、幅2m、長さ１６mほどのものですが、この絵はそのモデルで、この網でどうやって採るかをしめしています。

実際は竹竿が何本も使われて、鴨の来る水面を広くカバーするように仕掛けられます。上の図のように、竹竿の先にロープがかけられていて、竹竿の間辺りに鴨が来るのを待って、ロープを強く引きます。すると竹竿の先のロープにに広くし込まれていた網がひろがって、鴨を捕らえるというわけです。多いときには百羽を越える鴨がとれたそうです。

もちろん、この絵はモデルで、実際は、紐の引き手は遠くの小屋にかくれており、仕掛けをしてからは何日も撒き餌をして鴨が集まるのを待ってからようやく仕掛けを動かしたそうです。



前号を見られた大塚俊樹さんからお便りをいただきました。

第２０号は特に興味深く読みました。トモエガモとヨシガモの写真は特に良かったです！　カモは稲藁で編んだ『ふご』という籠に入れて運んだり…の所で一挙に子どもの昔に帰りました。『ふご』という名…懐かしい、使っていました。直径７０ｃｍ、高さ４０ｃｍ位の円筒形の藁で編んで稲穂側が底になり固く編んであり、芋など相当重い物でも底はぬけず、縁2か所に編んだ持ち手が付いていて両手で持ったり、持ち手を繋いでいる縄に、「おうこ（天秤棒）」を通して前後2個運んだりしてました。籠というニュアンスと少し違うような気がしますが…この他、モッコ、筵、カマス、縄、草履など何でも、家の祖母ちゃんが作っていたのを思い出します。『ふご』懐かしいですね…

無双網の体験のあと、いつものように跡地を散策しました。下の野鳥はすべて、当日参加された緒方正義さんの美しい写真です。モズは♂と♀２羽が一緒に行動していたようです。こちらも繁殖の季節なんでしょうね。ジョウビタキの♀はあちこちで観察できましたね。跡地のイカルチドリの広場では主もご在宅でした。風の中、じっと動かないので、まるで石のようで探すのが難しいですが、そこは松下彩二さんが、きちんと見つけてくれました。ビンズイが３羽、池の傍にいましたが、スコープで見ると逆光でも美しく観察ができました。ビンズイはホオジロのような色合いですが、実はセキレイの仲間です。だから、尾を縦に時折振るんですね。

草地では、越冬中のツチイナゴも飛び立ちました。大渡さんが捕まえてくださいました。ファーブルで観察すると小さな毛が沢山生えていました。他のバッタも毛が生えているんでしょうか？　それぞれの時期に観察してみたいと思いました。

冊子編集

３月３日、小郡市埋蔵文化財調査センターにて、第１５回編集会議を行いました。参加された方は辻本美恵子、溝口澄子、安部泰男、柿本陽子、吉木直子、末永邦夫、三木眞、酒見裕子、藤田清人、松下彩二・雅子、山本勝・寿美子、勝野史雄、松永紀代子の１５人です。当日は２校目の校正を行い、３月５日に印刷屋さんにメールにてお渡ししました。また、第１６回編集会議を２１日に行います。冊子編集の最後の会議になります。冊子の出来上がりは諸々の事情で４月にずれ込みますが、ご了承ください。皆さんの貴重な時間をいただいた冊子があと少しで出来上がります。ご期待ください。

尚、カンパをｍｓさんから１０００円いただきましたので、冊子編集に関するカンパの合計は１５３１０円となりました。ありがとうございました。

松　根　油（しょうこんゆ）

１月２６日に里山を歩きましたが、そのときに松林を通りました。　三国の松では松脂をとっていたそうですが、そのときに三木眞さんから松根油もとっていたかもしれない、というお話を聞きましたので、少し調べていただきました。三国での話ではありませんが、松の利用ということで載せさせていただきます。三木さん、ありがとうございました。

「昭和２０年頃のことでしょうか。飛行機（戦闘機）の燃料にする油が不足しているので、松の根っこを掘って供出することになりました。大きな松の木を一本割り当てられ、女性と年寄り４～５人で掘りあげました。『なれない仕事で骨が折れたよ』、と明治４１年生まれの母の話です。（山口県大内村でのことです）　広辞苑　松根油　松の根株、または松の枝を乾留して得る油。成分はテレピン油に似る。ペンキ、ニスなどの溶剤に用いる。」

末永さんのＤＶＤ

末永さんのご好意で、ＤＶＤを配布させていただきましたが、今後は無料で配るのではなく、お金をいただいて、会の資金としてはどうか、という声が出ています。その際には実費は末永さんにお返しするという形をとりたいと思います。

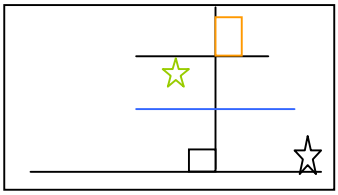
ありがとうございました

ＯＴさんから郵送用の封筒１００枚いただきました。お気遣いありがとうございました。

新入会　　端山富士子

次回の予定　　畑地や川を観察しよう。

３月２９日（土）　９時３０分　光が丘サニー店の南西にある溜池の堰堤☆集合



青線　宝珠川
四角　ガソリンスタンド
☆　　津古駅

発行元　三国丘陵の自然を楽しむ会
http://mikunikyuryo.blog107.fc2.com/
連絡先　　willard@mbc.ocn.ne.jp

編集協力　松下雅子、勝野史雄
イラスト協力　大渡剛弘
写真協力　緒方正義、
写真・カット・文　まつながきよこ